

1. 室伸一《ARK…》1990年 サントリー美術館所蔵 撮影：小嶋宏和、齋城卓

サントリー美術館特別協力 ガラスに挑む—素材へのまなざし

- 会 期 2021年4月10日(土) — 2021年6月22日(火)
会 場 富山市ガラス美術館2階 展示室1・2
開場時間 午前9時30分～午後6時まで(金・土曜日は午後8時まで、入場は閉場の30分前まで)
※初日のみ開会式(午前11時より)終了後開場
閉場日 4月21日(水)、5月12日(水)、5月19日(水)、6月9日(水)、6月16日(水)
観覧料 一般800円(600円) 大学生600円(500円)
●高橋禎彦 playtimeとの共通観覧券 一般1,400円(1,200円)/大学生1,200円(1,000円)
●()内は20名以上の団体 ●高校生以下は無料 ●本展観覧券で常設展も観覧可
●前売りチケット取り扱い(一般単独券のみ:600円)
アスネットカウンター Tel.076-445-5511、TOYAMA キラリ1階総合案内
主 催 富山市ガラス美術館
特別協力 サントリー美術館
後 援 北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、チューリップテレビ、富山テレビ放送

関連プログラム

●開会式

- ・日時：4月10日（土）午前11時より
- ・会場：富山市ガラス美術館2階 ロビー ※一般の方もご参加いただけます。

●講演会

- ・日時：4月25日（日）午後2時より（1時間30分程度）
- ・会場：富山市ガラス美術館2階 ロビー
- ・講師：石田佳也氏（サントリー美術館 学芸部長）
※参加無料、事前申込不要。

●ワークショップ「キャストの技法を体験：ガラスのオブジェを作ろう」

- ・日時：5月22日（土）、5月29日（土）の2日間
両日 午後1時30分～午後4時30分（3時間程度）
- ・講師：渋谷良治（富山市ガラス美術館 館長）
- ・共催：一般財団法人 富山市ガラス工芸センター
※ワークショップの詳細（定員、申し込み方法など）については、当館ウェブサイトに掲載します。

●見どころトーク

展覧会担当学芸員がスライドで本展の見どころを分かりやすく解説します。

- ・日時：4月11日（日）、5月2日（日）、5月16日（日）、6月13日（日）
各回午後2時より（各回20分程度）
- ・会場：富山市ガラス美術館2階 会議室1・2
- ・定員：各回先着17名程度
※参加無料、事前申込不要。ただし参加には本展の観覧券が必要です。

●イブニングトーク

見どころトークを夜間開館中（午後6時より）に開催するものです。

- ・日時：6月4日（金）午後6時より（20分程度）
- ・会場：富山市ガラス美術館2階 会議室1・2
- ・定員：先着17名程度
※参加無料、事前申込不要。ただし参加には本展の観覧券が必要です。

◎関連プログラムは都合により中止、または変更となる場合があります。

最新の情報は当館ウェブサイトをご確認ください。

●新型コロナウイルス感染防止対策について

- ・展示室内の混雑状況により、入場を一時的に制限する場合があります。
- ・マスクを着用し、咳エチケットにご協力ください。
- ・発熱や咳など、風邪のような症状がある方は、ご来館はご遠慮ください。
- ・入場前に検温、体調などの確認をさせていただく場合があります。

概要

20世紀半ばに胎動を始めた現代ガラスアートは、1980～90年代に世界的な興隆期を迎えます。本展では、国内有数のガラスコレクションを所蔵するサントリー美術館のガラス作品16点と、富山市の所蔵するガラス作品8点を展示し、この時代の活気に満ちたガラス芸術の様相をご紹介します。

サントリー美術館の現代ガラスコレクションは、1988年から1998年にかけて全8回開催された「サントリー美術館大賞展」への出品作品で構成されています。創立以来「生活の中の美」をテーマとして活動していた同館は、人々の意識や生活環境が急激な変化を見せた20世紀末において、美術と工芸の境界にとらわれない新たな時代の造形を探求することを目指し、この大賞展を開催しました。陶や金属、繊維、ガラスなど、特に工芸の分野で用いられてきた素材による造形芸術を対象として行われた同展には、多くのガラス作家が参加しました。

同展に出品したガラス作家たちは、透明性や表面に現れる様々な質感、繊細さ、物体としての量感など、素材の持つ特徴やそこから生まれる表情をそれぞれの立体造形へと積極的に取り入れ、独自の表現を展開しました。これらの作品は、自らの扱う素材と真摯に向き合い、新たな造形表現を探求し続けた作家たちの、飽くなき挑戦の証といえます。

本展を通して、1980～90年代におけるガラス作家たちの充実した造形表現の数々をお楽しみください。

●出品作家

いぬざみとしお いくたによこ 家住利男、生田丹代子、
おうぎたかつや 扇田克也、ウラジミール・クライン、
しぶやりょうじ 渋谷良治、
たかはしよしひこ たかおゆうこ はしもとゆうじ ふくにしたけし 高橋禎彦、中尾祐子、橋本祐二、福西毅、
りチャード・マイトナー、
むろしんいち 室伸一、
よこやまなおと 横山尚人、
マリア・ルゴッシー

(計15名、五十音順)

第1章 かたちを彩る

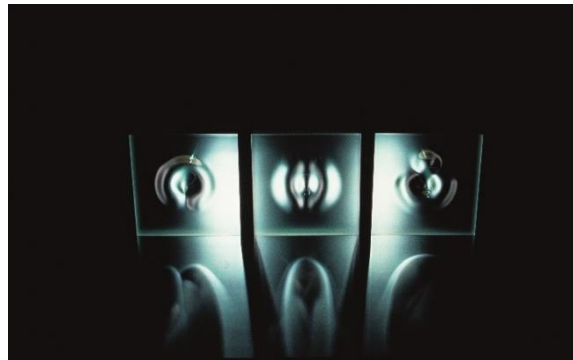
溶けたガラスを造形する過程で、様々な色ガラスを組み合わせていくと、素材の特徴の一つである艶やかさを失わずに、豊かな色彩を表現することが出来ます。ここで紹介する作家たちは、時にキャンドルスタンドやボトルなどの工芸的なフォルムを借りながら、動物や植物、建物といったモチーフを取り入れ、鮮やかな色ガラスを用いて作品を形作っています。多彩な色合いとフォルムとが調和する作品は、ユニークな造形によって私たちの想像を様々に掻き立て、また象徴的なモチーフによって物語の一説をイメージさせます。



2. 横山尚人《花の番人》1988年
サントリー美術館所蔵 撮影：近藤正一

第2章 光を導く

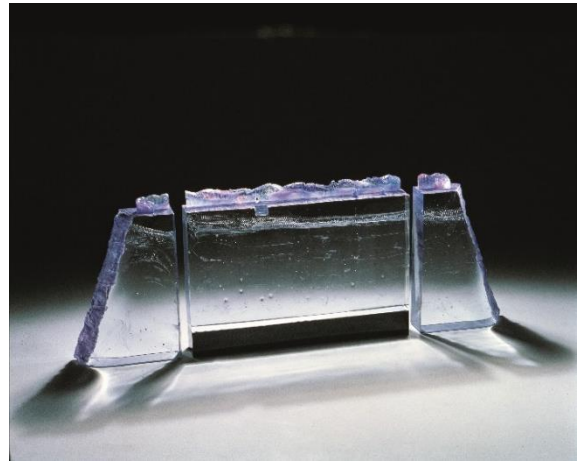
ガラスは光を屈折、反射させる素材です。作家たちは、ガラスにカットや研磨といった加工を施すことで、意図的に光を屈折、あるいは反射させ、作品へと取り込んでいます。作品の表面に施した僅かな凹凸は、反射する光に揺らぎを与え、私たちの視覚を惑わせるような錯覚を生じさせます。また、ガラスの表面に反射、あるいは屈折する光の様子は、作品との位置関係によって変化し、思わぬ形や色を感じさせます。作家たちは形と光が織りなす効果によって、宇宙や感情を可視化し、また視覚の不確かさを明らかとするような作品を展開しています。



3. 家住利男《でっぱりとへこみ》1992年
サントリー美術館所蔵 撮影：家住利男

第3章 空間を形作る

光を透過することは、ガラスの大きな特性の一つといえ、そのあり様は表面の質感により異なります。滑らかに研磨された透明なガラスは、光を完全に透過させますが、マットな質感を持つ部分では、光を拡散させ、明暗や色調が変化します。また、ガラスの厚みに応じて光の吸収率が変わり、一つの形の中で色彩の濃淡を生み出します。作家たちは、ガラスの質感や厚みの変化を利用して、作品の内側に特定の空間を構築し、その造形によって命の盛衰や時の流れといった、移りゆくものを表現しています。



4. 渋谷良治《時の記憶 '90-IV》1990年
サントリー美術館所蔵 撮影：小嶋宏和、齋城卓

第4章 物質性をあらわす

日常的に目にするガラスの多くは透明で、しばしばその存在が希薄に感じられます。作品に残された制作時の痕跡や、ラスター彩やサンドブラストといった技法による表面への加工、あるいは異なる素材との対比により、作家たちは触覚をも呼び覚ますほどの生々しい質感を作品に与えています。また、作品のフォルムと質感を通して、素材そのものの持つエネルギーや、時間、空間、概念、自己といった様々なイメージを表すを試みています。こうしたガラスの物質性があらわとなった作品は、ものとしての存在感を増し、時にガラスとしての圧倒的な量感を感じさせる一方で、触れるのものはばかられるほどの繊細さや緊張感と呼び起こします。



5. 扇田克也《BALANCE》1994年
サントリー美術館所蔵 撮影：小嶋宏和、山本正治

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者：_____

T e l : _____ F a x : _____

E - m a i l : _____

住所：_____

団体名：_____

富山市ガラス美術館 画像貸し出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展「サントリー美術館特別協力 ガラスに挑むー素材へのまなざし」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名：_____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨

別紙のとおり（媒体資料を添付してください）

4. 掲載（放映）日時：_____

5. ご希望の画像番号：_____

○作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。キャプション等の文字が写真にかぶらないようお願いします。

また、縦横比の変更やトリミングはおやめください。

○ウェブサイトにご使用の場合は無断転載禁止の旨を明記し、コピーガードを施すか、解像度 72dpi 以下及び長辺 400pixel 以下の画像サイズにてご使用ください。

○作品掲出には指定するキャプションを必ず入れてください。

○提供する画像データは使用後速やかに消去してください。

○作品画像の 2 次使用はご遠慮ください。

※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。また、画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。

○商品の PR 等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。

○校正ゲラの段階で情報の確認をさせていただきます。

○記事が掲載された場合は DVD、掲載紙、誌を一部ご寄贈いただきますようお願いします。

申請書送付先：富山市ガラス美術館広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax : 076-461-3310

お問い合わせ：富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5-1

TEL : 076-461-3100 Email : bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp (広報担当) <https://toyama-glass-art-museum.jp/>